

医学部国際医学研究会 (IMA) が オンラインでの国際医学生会議を初開催

国際医学生会議 参加大学

日本：慶應義塾大学 アメリカ：ジョンズホプキンス大学、ワシントン大学 ブラジル：サンパウロ大学 中国：北京大学
イタリア：サクロ・クオーレ・カトリック大学 タイ：タマサート大学 韓国：延世大学校 スペイン：オビエド大学



右より山崎真敬団長、松島宏和君、中村竜也君、倉堀智一君

2020年7月25日(土)・26日(日)の2日間、医学部の学生団体・国際医学研究会(IMA)が、世界8カ国の医学生によるWeb会議「国際医学生会議」を開催しました。

四十数年の歴史を有するIMAでは、毎年、夏休み期間に6年生3〜4名の派遣団が中南米での活動を展開。現地ではJICA(国際協力機構)やNGOの国際医療活動などに参加し、十分に医療が行き渡っていない地域の医療事情を体験しつつ、「医の原点」を見つめ直す機会となっていました。

ミックにより渡航は同会史上初めて中止に。「最後まで実現の可能性を探っていた」と話す派遣団学生責任者の松島宏和君、会計の中村竜也君と渉外の倉堀智一君の第43次派遣団員3名は失意の中で議論を重ね、一つのアイデアにたどり着きました。世界各国の医学生がこの状況下で何を考え、どのように行動しているかをオンラインで話し合う機会を設けたらどうだろう。それが「国際医学生会議」の出発点でした。

でも活発に意見交換が行われなかった。倉堀君は「将来、国際的な保健衛生に携わることを目指す私にとって、今回の会議はかけがえのない経験になった」と会議を振り返ります。

自身も学生時代にIMAで活動した派遣団団長の山崎真敬医学部外科学教室(心臓血管)専任講師は、「今回の苦労と経験は彼らが医療の世界で働きはじめてから、その本当の価値がわかるだろう。団長として、先輩として、心から彼らを誇りに思う」と挑戦をたたえました。



オンラインで開催された国際医学生会議